

A 危機管理部長

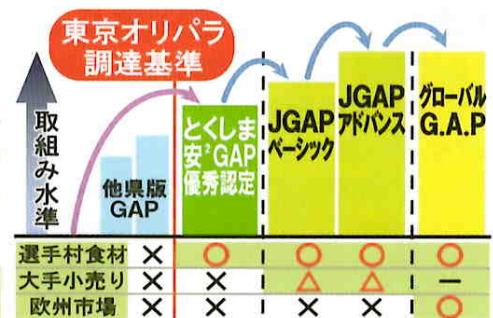
災害時における、高齢者や障がい者にも使いやすいトイレの確保は「避難所生活のQOL」のみならず、「生命・健康」に直結する切実な問題であると強く認識している。県では、熊本地震の教訓を踏まえ、避難所となる県立学校の常設トイレの洋式化やバリアフリー化、公共工事や大規模イベントにおける仮設洋式トイレの使用拡大を推進してきた。加えて、今年度は「進化する・とくしまゼロ作戦・緊急対策事業」を拡充し、市町村が避難所を対象に実施する常設トイレの洋式化、マンホールトイレや合併処理浄化槽の整備などに積極的に支援を行う。さらに、この計画を実効性あるものとするため、平成32年度までの「ロード・マップ」として、数値目標を設定した「アクションプラン」を8月末日途に策定し、トイレ対策を強力に展開し、「助かった命をつなぐ」ため、「避難所のQOL」のより一層の向上にしっかりと取り組む。

※ QOL…Quality of life「生活の質」

<コメント・考え> 発災からの時間経過に応じた整備ができるので、市町村にしっかりPRし、早急に整備の支援を行ってほしい。体育館だけではなく、学校施設トイレの洋式化も進め、平時・発災時のQOLの更なる向上を図っていくべき。

Q4 県産農畜水産物の東京オリ・パラ食材供給対応について

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会は、選手村食材についてGAPの取得が要件となる、食材調達基準を公表した。JGAPやGGAPなどの他、各県は独自基準の県版GAPに取り組み、「とくしま安²GAP・優秀認定」は食材調達基準を満たし一歩進んでいると言えるが、県内の優秀認定取得件数は13件で、JA生産部会などの団体認証の事例はない。大手小売り店においてJGAPを取得要件とする動向もあり、農水省ではGAPの取得費用を負担していくとも聞いている。この動向を踏まえまずは「とくしま安²GAP」の取得数拡大、そしてJGAPやGGAPへのステップアップをどのように展開するのか？



※GAP(ギャップ)…農業生産工程管理 食品安全、環境保全、労働安全などの取組み水準に応じて、日本の農場管理を考慮して作られたJGAP ベーシック・アドバンス、さらにヨーロッパマーケットで基準となるグローバルGAPなどがある。8月からJGAP ベーシックは「J(ジャパン)GAP」へ、JGAPアドバンスは「ASIA GAP」となり、国内およびアジア圏における基準に!

A 飯泉知事

今後GAPの重要性は益々高まるものと認識している。東京オリ・パラへの食材供給を推進するため「東京オリ・パラ『阿波ふうど』でおもてなし推進協議会(仮称)」を秋にも設立し、取組方針を策定、食材供給に向けた取組みを強力に進める。またGAP認証取得者を増やす対策として「エシカル農産物・生産流通研究会」を発足させ、最新の農産物流通や消費動向に関する知識を深め、取組みを広げる交流の場として活用いただく。併せてGAP農産物の意義や価値を消費者の皆様にご理解いただくことも重要であると考えており、これまでの普及啓発活動に加え消費拡大キャンペーンを実施してゆく。東京オリ・パラ以降の流通や消費動向を展望し、本県GAP農産物を国内外へ発信してゆく。

<コメント・考え> GAPを取得するのに費用や手間がかかる割に、価格に反映されていないのが課題。動向に遅れることがないよう、GAP取得促進と共に、その優位性を広げて欲しい。JA生産部会などと連携し、東京オリ・パラ以降をも見据えた県産農畜水産物のブランド化・生産振興を進め、国内外へPR・出荷拡大を早急に進める必要がある。

Q5 狩猟者の育成・確保に向けた総合的な対策について

野生鳥獣の被害が減少しておらず、狩猟者の育成・確保は喫緊の課題であるが、不足していることは否めない。一方で捕獲した鳥獣をジビエとして利用も考えられているが、普及していない。国においてジビエの利用拡大に向け「捕獲から処理・流通・消費・PR」まで一貫して支援していく方針が示された。捕獲や狩猟者の確保だけでなく、捕獲した鳥獣を利用する施設の充実、ジビエの販路拡大、周知・啓発を一体として取り組み、ジビエとして美味しく食べていただくことが、狩猟者の確保、鳥獣被害防止につながると考える。

野生鳥獣による本県の農作物被害 H21年度以降 毎年1億円を上回る 明谷地区にも加害レベルの高い猿の群れ

A 熊谷副知事

鳥獣被害は深刻であり、今後さらに捕獲数を増やしていくためには、若手狩猟者の育成・確保が喫緊の課題となっており、狩猟そのものに魅力を感じ、免許取得の動機付けを与える取組みが必要である。ご提案の捕獲から処理・加工・流通・消費・広報まで、一貫した取組みを進めることは重要な視点である。秋以降に、若者に狩猟に関心を持っていただく「狩猟の魅力・まるわかり・フォーラム」とジビエの活用を促進するため「阿波地美栄(アワジビエ)・フェスタ」を同時に開催し、捕獲からジビエとしての利活用に至る一連の流れを広く発信する。国の動向に呼応